

学力向上だより “**継続と徹底**”

第90号 R4.9.27(火)

佐賀県教育庁教育振興課



全国調査結果を生かした教科横断的な資質・能力を育む授業改善に向けて

8月5日(金)に「令和4年度小中連携による学力向上推進地域指定事業に係る指定校連絡会」をアバンセで開催しました。講師に 福岡県筑紫野市立二日市東小学校 副校長 礒部 年晃 氏をお招きし、演題「**全国学力・学習状況調査結果を生かした教科横断的な資質・能力を育む授業改善**」で御講演いただきました。講演後は、指定校の中で、各学校の実践の紹介や、これまでの取組の成果と課題についての意見交換を行いました。

講演のポイントと参加された先生方の感想を紹介します。



講演のポイント

- 学力調査結果を生かした学力向上において大切なことは、児童生徒の**誤答の理由**を考えることである。そのことが、授業改善のきっかけやヒントにつながる。
- 学力調査を生かす指導には、**予防的指導**(指導事項の達成状況が不十分な内容についてなんとか達成状況にするために予防的方策を構築するもの)と**治療的指導**(達成不十分な指導事項を適用問題で練習するもの)がある。(福田 2011)
- 治療的指導だけではなく、予防的指導も含めた継続した授業改善、教員研修が必要である。
- 授業改善の成否は、**行動前提**(規範やその他の文化の諸側面が立脚している基盤的信念)がどれだけ共有化されているかがポイントとなる。(Owens&Steinhoff 1977)
- 学力調査の対象学年、対象教科だけで授業改善に取り組むのではなく、**学校全体としてこういうことをやっいてこうという「行動前提」をつくること**が大切である。それが、**学校全体の教育力の向上**につながる。
- 授業改善に必要な教師の「知識」は、**全国調査に関する教育的知識**(児童生徒の学力状況)、**全国調査に関する内容知識**(育成すべき資質・能力)、**全国調査に関する教育的内容知識**(全国調査問題・結果を生かした教材開発、指導の手立て)である。(礒部・益子 2022)
- 子どものつまずき**を基盤として、**全教科を巻き込んだ授業改善**の方策を考えていく必要がある。
- 今後の教育データ利活用を見据え、教師自身が全国調査を含めた**データを指導改善に利用できること**も、今後教師に求められる必要な資質・能力となる。

参加者の感想

- ・全国調査の結果が出て、自分の学校の正答率を全国、県と比較するだけでなく、誤答分析をすることの意義(生徒のつまずきの本質を探ること、教師側がどのようなことを意識して日々の指導をしていけばよいか確認すること)を深く理解することができた。
- ・行動前提の共有化、組織的に取り組んでいくことの大切さを改めて感じた。実現可能性、継続可能性の視点ももちながら、学力向上に向けた取組を進めていきたいと思う。

県内の学校において今後の学力向上に向けた取組の推進の参考となるよう、講演の動画を配信しています。配信期間は、**9月30日(金)まで**となっておりますので、ぜひ御視聴ください。(参照:令和4年8月24日付け事務連絡)



令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果 ～小学校編～

今年度実施された全国学力・学習状況調査において、佐賀県で課題がみられた問題を紹介します。
各学校の分析結果と比較検討し、今後の学習指導の改善・充実に向けた取組につなげていきましょう。

※中学校は、次号でお知らせします。

国語の“つまずき”はココ！

【小学校国語】

※全国：全国（公立）の割合（％）

設問番号	出題の趣旨（評価の観点）	問題形式	正答率		無解答率	
			県	全国	県	全国
3 二	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける（思考・判断・表現）	記述式	36.4	37.7	14.5	14.5

★指導のポイント★
自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりすることができるよう指導することが大切です。

3 鳥谷さんの学級では、「六年生としてがんばりたいこと」を書くことになりました。次は、鳥谷さんが最初に書いた「文章1」と書き直した「文章2」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章1】
わたしは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができていた学級の様子をうかがって、各学級にしようかいたしたという活動がすばらしいと思いました。

この話を聞き、五年生の時にさばい委員会では自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをはんせいしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も楽しむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいたしたいです。

【文章2】
わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。

そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができていた学級の様子をうかがって、各学級にしようかいたしたそうです。

この話を聞き、五年生の時にさばい委員会では自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをはんせいしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も楽しむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいたしたいです。

※解答類型：一部省略

解答類型	反応率（％）		正答
	佐賀県	全国	
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①【文章2】のよさについて以下のことを書いている。 a 聞いたことや経験したことをもとにしていること b 最後の段落にがんばりたいことを具体的に書いていること c a、b以外のこと ②【文章2】から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 60字以上、100字以内で書いている。			
1 条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、a、bの両方を書いているもの	1.3	1.9	◎
4 条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、aを書いているもの	14.9	15.6	◎
6 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、条件①については、aを書いているもの	2.5	2.8	
7 条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、bを書いているもの	4.6	5.1	◎
9 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、条件①については、bを書いているもの	1.2	1.7	
10 条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、cを書いているもの	15.5	15.2	◎
12 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、条件①については、cを書いているもの	3.4	4.3	
0 無回答	14.5	14.5	



算数の“つまずき”はココ！

【小学校算数】

設問番号	出題の趣旨（評価の観点）	問題形式	正答率		無解答率	
			県	全国	県	全国
2 (3)	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している（知識・技能）	選択式	19.0	21.4	0.8	1.1

(3) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。

500 mL 果汁20% → 250 mL 250 mL

250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。
このとき、

上のア^アにあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

解答類型	反応率(%)		正答
	佐賀県	全国	
1 1と解答しているもの	68.7	67.9	
2 2と解答しているもの	10.9	9.3	
3 3と解答しているもの	19.0	21.4	◎
99 上記以外の解答	0.6	0.5	
0 無回答	0.8	1.1	

★指導のポイント★
生活経験を基に、日常の具体的な場面に対応させながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の濃さを表していることを理解できるように指導することが大切です。

設問番号	出題の趣旨（評価の観点）	問題形式	正答率		無解答率	
			県	全国	県	全国
1 (4)	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる（思考・判断・表現）	選択式	28.8	34.8	0.5	0.9

(4) カップケーキが1個入り85円でも売られています。くるみさんは、1個入り85円のカップケーキ21個分の値段と、Bセット（21個入り）1箱分の値段である1470円を比べるとしました。

1個入り 85円 | Bセット（21個入り） 1470円

1個入り85円のカップケーキ21個分の値段は、 85×21 で求めることができます。

くるみ 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることは、 85×21 をそのまま計算せずに、85と21をがい数にして計算してもわかります。

85×21 の答えが、1470より必ず大きくなるのがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- 85を小さくみて80、21を小さくみて20として計算します。
- 85を小さくみて80、21を大きくみて30として計算します。
- 85を大きくみて90、21を小さくみて20として計算します。
- 85を大きくみて90、21を大きくみて30として計算します。

解答類型	反応率(%)		正答
	佐賀県	全国	
1 アと解答しているもの	28.8	34.8	◎
2 イと解答しているもの	4.9	4.8	
3 ウと解答しているもの	55.7	49.8	
4 エと解答しているもの	9.8	9.3	
99 上記以外の解答	0.3	0.5	
0 無回答	0.5	0.9	

★指導のポイント★
概数にして見積もる際には、概数にして計算した結果と、実際の数の積との大小関係について話し合う場面を取り入れながら指導していきましょう。



理科の“つまずき”はココ！

【小学校理科】

設問番号	出題の趣旨（評価の観点）	問題形式	正答率		無解答率	
			県	全国	県	全国
3 (1)	日光は直進することを理解している（知識・技能）	選択式	29.1	27.8	0.4	0.6

3 たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、的をあてゲームをしました。

上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、円形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

(1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある的に、三角形の光をあてることができるのはだれですか。下の 1 から 4 までの中から 1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 たかしさん
2 はなこさん
3 かつやさん
4 全員

解答類型	反応率 (%)		正答
	佐賀県	全国	
1 1と解答しているもの	14.0	13.1	
2 2と解答しているもの	45.4	48.6	
3 3と解答しているもの	29.1	27.8	◎
4 4と解答しているもの	11.1	9.8	
99 上記以外の解答	0.0	0.0	
0 無回答	0.4	4.6	

★指導のポイント★

はね返した日光を地面に当てたり、はね返した日光の間に紙を入れたりするなどして、主体的に問題解決をする中で、はね返した日光が直進することを捉え、説明する場面を取り入れながら指導していきましょう。

※掲載している調査問題は、国立教育政策研究所のウェブページから引用しています。



インフォメーション

令和4年度 全国学力・学習状況調査「解説資料」「報告書」について

国立教育政策研究所から各学校等に、全国調査の「解説資料」「報告書」が送付されています。

「解説資料」では、出題の趣旨、学習指導要領における領域・内容、解答類型等についてまとめられています。

「報告書」では、設問ごとの解答状況、成果や課題の有無、特徴的な解答の分析、学習指導の改善・充実を図る際のポイント等がまとめられています。

また、今年度から、調査結果の課題分析と課題の解決を図る事例を一体的に示すことで学習指導の改善・充実に資するよう、授業アイデア例が報告書内に掲載されています。

今回の調査で見られた課題は、調査対象である小学校6年生と中学校3年生だけではなく、学校全体で組織的・継続的に改善を図っていくことが大切です。

日々の授業や研修会など、様々な場面で活用し、児童生徒の学習状況の改善につなげましょう！



※「解説資料」「報告書」は、国立教育政策研究所のウェブページでも御覧いただけます。

令和4年度 第1回佐賀県学力向上対策検証・改善委員会 における主な意見

県教育委員会では、学力向上に係る PDCA サイクルの確立の要として、大学関係者、有識者、保護者代表者、市町教育委員会代表者、学校教育関係者で構成する「佐賀県学力向上対策検証・改善委員会」を設置して、全国調査や県調査の結果分析を通じた課題の抽出、指導方法等の検証・改善に向けた協議を行っています。令和4年8月29日に開催した第1回委員会における主な意見を紹介します。

【全国学力・学習状況調査について】

- 課題となっている「目的に応じて、資料から適切に情報を読み取る力」に関して、授業の中で取り組んでいることと全国学力・学習状況調査（以下「調査」）でその力を発揮することとのつなぎの部分が弱いと思う。
- 調査の時には、どのようにして目的に応じて情報を読み取るのか、問題文の中の言葉と問いの中にある言葉とを照合して作業していく。その学び方を小学生の段階から教える必要がある。
- 資料から読み取れる内容を一つ一つ積み上げていくボトムアップ的な考え方も大切だが、逆に、目指す答えから逆算して考えていくことも一つの方法ではないか。
- 要点をつかめるようになるには、メモを取る習慣を付けることも大切である。メモを取る際は、どこでメモを取る必要があるのかなど、メモの取り方なども指導してほしい。
- 課題の提出に関して、プラスのフィードバックをすることで、自己肯定感や学びに向かう力を育むことにつながっていく。小学校では自主学習ノートへ「よく頑張ったね」等のコメントが入っているのを見るが、中学校も含めてもっと、児童生徒にプラスのフィードバックをすることが大切である。

【学力向上関係の取組について】

- データから見える自己肯定感の低さは小・中学校だけのことではなく、乳幼児期から感じる。この時期の状態が、小・中学校の時期に大きく現れているのではないかと。幼・保・小の連携を更に密にし、幼稚園や保育園の先生方へも今回の調査の課題を伝えていく必要があると思う。
- 子どもと大人との信頼関係ができていると、自己肯定感や感性の醸成につながっていくと思う。親が子どもの話に耳を傾けることで、お互いの信頼関係につながっていく。
- 家庭での過ごし方や宿題を頑張った子どもに対し、プラスのフィードバックを行うことが、その後の頑張りや自己肯定感の醸成へとつながるのではないかと。
- 子ども達は日常生活の中で、特に身近な大人から学ぶことが多い。その関わりからこんな大人になりたいという希望も生まれる。市町単位で、子どもと大人がしっかりと関わられるような取組が必要ではないかと。



「学力向上だより」についての感想などをお聞かせください。

「第〇号のあの記事が参考になった」、「こういった内容を取り上げてほしい」など、先生方の感想や御意見をぜひお聞かせください。お待ちしております。

また、「私の取組紹介」のコーナーでは、先生方の実践や授業アイデアを随時募集しています。自薦、他薦は問いません。どうぞお気軽に！

どちらも次のアドレスまで送信ください。 【アドレス】 gakuryoku-k@pref.saga.lg.jp